

No.57

1面 春季二科展
 2～8面 総評および招待作品制作のねらい
 9面 春季二科展に参加して（写真部・デザイン部）
 10面 第32回定時会員総会、理事会報告
 11面 計報
 12面 事務局だより、短信、理事・監事・評議員合同会議、編集後記



春季

社団法人
 二科会事務所
 発行人 織田廣喜 発行所
 電話 03 (3354) 6646



東京都美術館（合成）

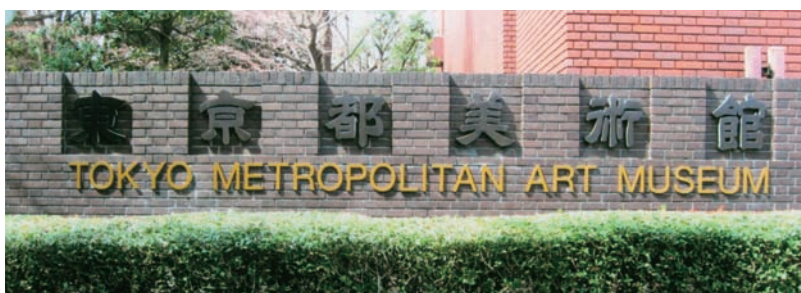
東京都美術館で 春季二科展開催

平成二十二年三月十四日から、二十四日まで、上野の東京都美術館で、春季二科展が開催された。絵画、彫刻、デザイン、写真、四部門も回を重ねて安定感が出てきた。

絵画部は一階に会員、二階に受賞者、二点入選者の招待作家で構成されている。春季展は実験の場でもあり、新しい試みの作品が見受けられた。

会員は元より、招待作家の力作が並ぶ会場から、彫刻部会場へ入ると、三回目となる今回、丁度良いサイズの作品が並んでいる。スペースを体で感じてのことかとも思う。会員、受賞招待作家の作品が入り混じり、それがかえって落ち着いた陳列に成っている。その先には、デザイン部、写真部が続いている。

都美術館は、二年間の改修工事に入る為、今回で暫く、上野での開催が出来なくなる。三年後には、新装なった会場での開催を予定している。



例年のお花見には少し肌寒い上野の山は、まだ淡い桜色がかすかに漂う春季展でした。本展は九十五回記念展になります。夏に向けて、それぞれ制作に入っていく事と思います。次回は六本木での再会です。

春季展総評
[絵画]

破綻なき進展

常務理事 田中 良

上野の森は、多彩な催事で人々が溢れている中、都美術館での春季展が開催された。

今回も絵画、彫刻、デザイン、写真の四部門での展示となった。館外の喧騒とは裏腹に、会場は至って静かな雰囲気にもまれ、陳列効果も良く、作品を丁寧に鑑賞出来て、評判もよかった。入場者も昨年より増え、大へん盛会であった。

出品総数は、会員一三〇点、招待作品四四点計一七四点、出品作品について、先ず招待作品は、夫々自分の持ち味を十分発揮されて見応えがあった。会員作品も含めて、全室が清々しく心地よかった。会員諸氏の作品は、自分の世界に徹しており、破綻の少ない仕事をされていた。ただ、春季展は実験的試みという趣旨からみると、私の自省もこめて意気込みのパワーが

やや足りなかったのか？：その辺のところは一概には言えないが、現代の絵画は、世相を反映してか、コンピュータなどを含めた新しいメディアによる表現が多くみられ、これがアートなのかと判断に迷うことも

あるが、それはそれとして、他からの影響は極力排除しつつ、己の信念を貫くしかないであろう。

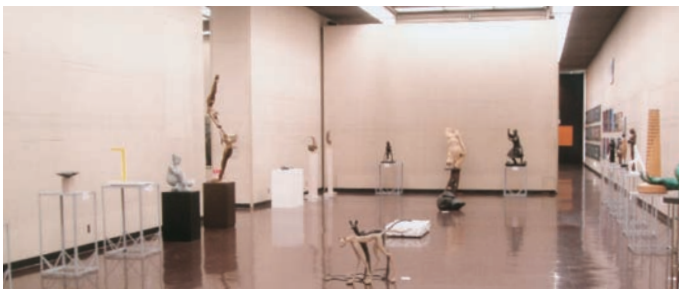
次は国立新美術館での、第九十五回記念二科展が開催される。二科会の歴史にまた輝く一頁が加えられるようにしている。



絵画部会場風景



絵画部会場風景



彫刻部会場風景

二科展にとって、今や懐かしい上野の都美術館に於て春季展が開催された。

展示された作品は、出品希望の会員、会友と招待した会友並びに一般出品者の作品である。会場の展示状況は、一部の作品は直接床に置い

春季展総評
[彫刻]

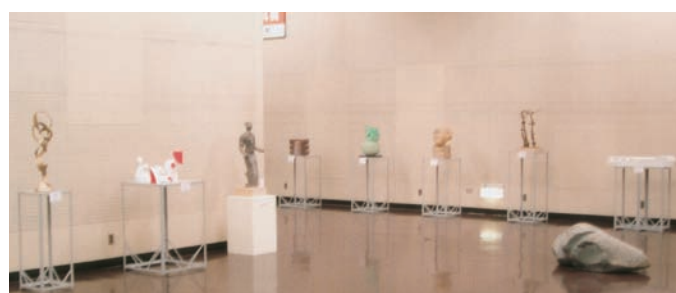
大切なのは創意

参与 倉澤 實

だが、大部分の作品は台座に乗せ、会場の壁面にそって規則的に整然と並べられた。この展示方法は会場の制約による結果だが、本来動的である筈の二科会彫刻展会場には整然と云う印象は余り似合わない気がした。

展示された作品は、当然ながら各々が持っている作品の主題を、慣れた技法で充実した安定感を見せていた。しかし、同時に物足りなさを覚えたのも確かだ。それは多分安定感の裏側にある退屈なのだろう。

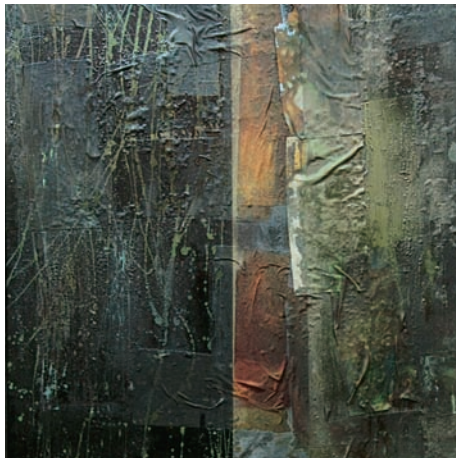
一般的に、作品を世間に発表するその意義とは、世の多くの人々が常に新しい変化を求めているこの動向に込めることでもある。同様に、我々の作品発表の意義も創意に富んだ作品を提示し、新鮮な作品との出会いを求めている多数の鑑賞者に伝えることではないだろうか。



彫刻部会場風景

二科会の創設以来、美の普遍性を追求する理念の基に、各々が自由な立場で創作活動を試みてきた。その結果、創意に於いて多元的な広がりを感じながら世に二科会彫刻の存在を創出してきた。これからも一層新鮮で活気のある会場を世に示したいものである。

春季二科展 絵画部 招待作品



落花流水 S80
山下 かじん



ある風景 S50
篠原 征子



月光 F100
渋谷 良子



風の花 F100
平 鈴子



方船 F100
川畑 清美

絵画部招待作品自評

(制作のねらいなど)

ある風景

篠原征子(福岡)

何時の頃からか、風景より心象風景へと変化し、筆では表現することが出来ない質感にこだわり、カラージュ、マチエールの変化を、さらなるテーマとして試行錯誤するくり返しの中で、自分なりの表現が、いかに魅力のある作品として描けたらと、取り組んでいます。

落花流水

山下かじん(長崎)

新しい素材を画面にぶつけると共に、それに伴う質感と空気感を実験的に構成しようとして試みた。

素材とドロイングの思案過程の中に鳴る少しばかりの音が少し聞こえ始めたので、私自身の感覚と感情を織り込んで組曲に仕上げていきたいと思っている。

方船

川畑清美(鹿児島)

方船のテーマで生命・家族・愛にかかわることを、色と形で表現できたらと思いつつ製作を続けてきました。

文字や言葉では、言いあらわせない気持(心)の変動をくり返しながら、これからの

取り組んでみたいのです。今回の機会をバネに自分を励ましながら筆を執っています。

三年後の新生都美術館を楽しむにしています。

風の花

平鈴子(鹿児島)

多くの風の風景をイメージして絵に表現したいと思っています。「風の花」も当然しつかりした構図があり乍ら、季節や心の状態に依り次々と増改築してまいりました。自分の内面を形・線・布・砂で遊び、空間の気持を表現出来ていたらと思っています。現実の風景をイメージで描く絵肌が如何にしたら新鮮な感性で描けるのか自分に問いかけています。

月光

渋谷良子(千葉)

幾億年も前から、地上へ送られてきている月からの光り。夜の景色を、漆黒の翳と銀色に二分し、シンプルな世界に塗り変えて形づくるしつとりとした光線。

その美しさに気づくのに半世紀以上の年月を費やしてしまった。月にひそむエネルギーを表現の糧に、月光が生命におよぼす抜き差し



風の詩 F100
ナカムラ 延



悪魔の道標 F100
古賀 のぼる



風道 F100
金田 道子



境界 S80
大井 孝信



DANCE F100
落合 江美

ならぬ気配をこれからも探つていきたい。

悪魔の道標

古賀のぼる（愛知）

混乱する今の世の中において、価値観とか既成概念をも変える新しい時代の流れの中で、私が常に制作課程で重視していることは、現在をどう表現するか苦心しています。まだ確信的な方向性がなく不安と怖さが迫ってきます。自分が今迄生きてきた証として、試行錯誤を重ね、生まれるフォルムで画面を構成する。

時代性と独自性を感じさせる作品を目標にしている。

風の詩

ナカムラ延（千葉）

青い空に、白い雲
あ、きれいだ。
風にさらわれて雲は、
一瞬、様々な形をみせる。
人の顔、横たわる裸婦か、
あ、マリリンモンローだ
街並、みなれた景色と…

今回、今にも雨か

雲と風に魅せられて、
絵の具をおいてみた。
瞬時の形にアレンジし、
いかに自分の形にしていくなか、
日々努力していきたい。

DANCE

落合江美（静岡）

作品はダンスホールをイメージし、人をピンの形に例え

て描いています。高校・大学で、生徒と一緒に絵を描きながら、新鮮な感覚を発見する事に出逢えたり、自分が勉強させて頂いている事に感謝しながら、日々絵の制作に励みたいと思います。これからはもっと地塗りや色のトーンなどを勉強し、自然の中にある色を取り入れ、深みが出る絵を描いて行きたいです。

境界

大井孝信（茨城）

絵を制作するにあたって、異次元とつながっている様な扉のイメージが出てきました。と同時に画面全体が赤いイメージでした。なぜ赤なのかは自分でも分かりませんが、まっかな夕焼けの様でもあり、非日常という魔法の世界の様なイメージでもあります。実際扉も現実の世界と非現実の境界として存在するものとして描いています。どこに通じる扉なのでしょいか。

風道

金田道子（愛知）

風は目に見えませんが、人生の折々に吹く風を、画面に描いてみたいと思って、いろいろな形を描いては消したり、残したりまた色調を抑えてみたりと、作業の方は試行錯誤をしています。

自分の主張したい事が、ま



薔薇の館 F80
添野 忠



生きて行く私 F100
中村 ふく子



魚骸(父)を慕う F80
津曲 和武



乗込 P100
磯貝 文利



回音 F100
橋本 弘子

まだまだ表現不足ですが、歩みを止めない様に、描き続けて行きたいと思っています。

魚骸(父)を慕う

津曲 和武(宮崎)

「生命の尊厳」「環境保全」が現在の追求テーマ。

本年一月、厳格だった父が他界、九十七歳だった。

真実を見極め、生命力に満ちていた表情を魚骸に託して、画面上部にイメージし

大胆に表現。下部は、感謝と祈りを込めて静寂に表現し、構成の統一に努めた。

色彩も、ホワイト・グレイ・茶系でまとめ、動と静のバランスを図った。

生きて行く私

中村 ふく子(愛知)

明日こそ、もっと良い絵が描けますようにと、願い続けて、長い年月が過ぎた。まだまだ先は長いけれど、ありのままの自分で、居ようと、近頃しきりに思う。それが作品

「生きて行く私」となった。

色面の構成と色。特に味わい深い色を出す為の、手探りと追求が、現在の私の課題です。

薔薇の館

添野 忠(栃木)

オールドボックスな表現ではあるが、その中にロマンティ

ックで、現代女性のもついきいきとした力強い表情をとらえてみたかった。

コスチュームが単純なので

胸元のネックレスをやや輝きのある大きな物にした。

赤みの入ったグレー調の中の薔薇、そして画面上部の建物を何とか面白く描いてみたいと考えたが、このあたりが今後の大きなテーマである。

回音

橋本 弘子(東京)

春季二科展招待出品のお知らせを受けて、夢ではないかと驚きました。

制作にかかって仲々進まずに四苦八苦、試行錯誤の連続でした。

色感に反省の箇所があり、これからの課題と考えています。

「回音」中国では響きと云う意味です。

乗込

磯貝 文利(愛知)

初心に返って、初入選作品をリメイクしてみた。

無邪気な子供は創造主、神の象徴、そして魚達とも

にある。神であるがゆえに光を与えもし、無邪気に残酷なこともする。

人も他の生き物も決して主従関係にあるものではない。宇宙の営みの中でそれぞれが使命を与えられ存在しているのだ。



鎮魂の詩 F100
中村 光彦



刻 F100
栗原 清道



時空 F100
葛西 裕子

老朽していく人も、
再び蘇生することを

刻々とは時は経過する。
しかし、不用となった
廃材も何か再生できるので
はなかるうか。

栗原 清道 (愛媛)

刻
母を車椅子で案内できま
した。

発想の源は母との世界旅
行。太古から響いてくる時
の流れと壮大で神秘的な存在
感・時空間に心が震えた。
春季二科展出品の機会を
頂き有難うございました。

時空
着陸より離陸が好き。も
っと上空から眺めたら、時
代の変遷が重なりあつて現
れた。今ひとときを刻んだ
時計はすでに未来の悠久空
間へと却を紡いでいる。

葛西 裕子 (神奈川)



Island's dream F100
山岡 明日香

樹や山々を見ていると落
ち着く、それらが絵となっ

刻々とは時は経過する。
しかし、不用となった
廃材も何か再生できるので
はなかるうか。

栗原 清道 (愛媛)

刻
母を車椅子で案内できま
した。

発想の源は母との世界旅
行。太古から響いてくる時
の流れと壮大で神秘的な存在
感・時空間に心が震えた。
春季二科展出品の機会を
頂き有難うございました。

時空
着陸より離陸が好き。も
っと上空から眺めたら、時
代の変遷が重なりあつて現
れた。今ひとときを刻んだ
時計はすでに未来の悠久空
間へと却を紡いでいる。

葛西 裕子 (神奈川)



Island's dream F100
山岡 明日香

樹や山々を見ていると落
ち着く、それらが絵となっ

刻々とは時は経過する。
しかし、不用となった
廃材も何か再生できるので
はなかるうか。

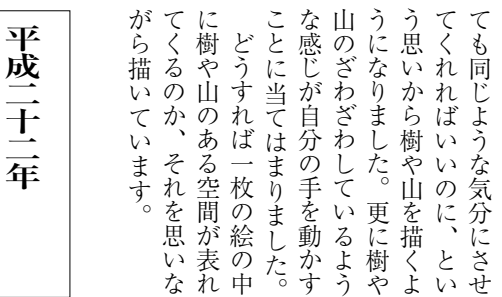
栗原 清道 (愛媛)

刻
母を車椅子で案内できま
した。

発想の源は母との世界旅
行。太古から響いてくる時
の流れと壮大で神秘的な存在
感・時空間に心が震えた。
春季二科展出品の機会を
頂き有難うございました。

時空
着陸より離陸が好き。も
っと上空から眺めたら、時
代の変遷が重なりあつて現
れた。今ひとときを刻んだ
時計はすでに未来の悠久空
間へと却を紡いでいる。

葛西 裕子 (神奈川)



Island's dream F100
山岡 明日香

樹や山々を見ていると落
ち着く、それらが絵となっ

刻々とは時は経過する。
しかし、不用となった
廃材も何か再生できるので
はなかるうか。

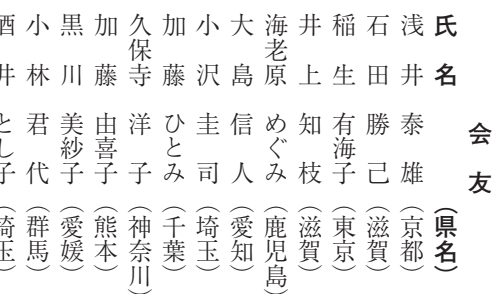
栗原 清道 (愛媛)

刻
母を車椅子で案内できま
した。

発想の源は母との世界旅
行。太古から響いてくる時
の流れと壮大で神秘的な存在
感・時空間に心が震えた。
春季二科展出品の機会を
頂き有難うございました。

時空
着陸より離陸が好き。も
っと上空から眺めたら、時
代の変遷が重なりあつて現
れた。今ひとときを刻んだ
時計はすでに未来の悠久空
間へと却を紡いでいる。

葛西 裕子 (神奈川)



Island's dream F100
山岡 明日香

氏名 一般 (県名)
磯貝 文利 (愛知)
大井 孝信 (茨城)
落合 江美 (静岡)
葛西 裕子 (神奈川)
金田 道子 (愛知)
川畑 清美 (鹿児島)
栗原 清道 (愛媛)
古賀 のぼる (愛知)
篠原 征子 (福岡)
添野 良子 (千葉)
平野 忠 (栃木)
津曲 鈴子 (鹿児島)
ナカムラ 延 (千葉)
中村 ふく子 (愛知)
中村 光彦 (群馬)
橋本 弘子 (東京)
山岡 明日香 (滋賀)
山下 かじん (長崎)

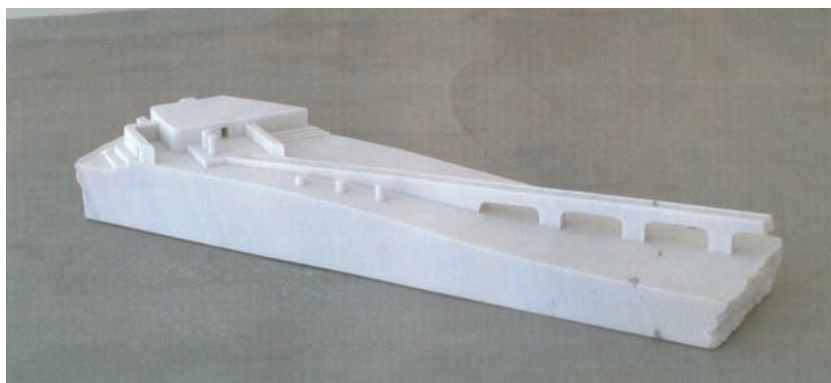
絵画部

平成二十二年 春季二科展招待者一覧

氏名 会友 (県名)
浅井 泰雄 (京都)
石田 勝己 (滋賀)
稲上 有海子 (東京)
井原 知枝 (滋賀)
海老原 めぐみ (鹿児島)
大島 信人 (愛知)
小沢 圭司 (埼玉)
加藤 ひとみ (千葉)
久保寺 洋子 (神奈川)
加藤 由喜子 (熊本)
黒川 美紗子 (愛媛)
小林 君代 (群馬)
酒井 とし子 (埼玉)
坂本 啓子 (京都)
佐藤 英行 (神奈川)
多田 剛子 (千葉)
筒井 道子 (愛知)
中村 薫 (新潟)
中村 稔 (愛知)
八田 栄子 (神奈川)
濱田 昭法 (広島)
藤井 直子 (兵庫)
町田 初恵 (茨城)
山下 宏 (埼玉)
吉田 清光 (神奈川)
彫刻部
氏名 一般 (県名)
杉原 一成 (東京)
土井 満治 (広島)
藤沢 恵 (埼玉)
工藤 会友 (秋田)
長谷川 俊直 (愛知)
日置 万里 (東京)
野路 育子 (広島)
長谷川 登 (栃木)



冬の樹 野路 育子



エントランス 土井 満治



命継ぐ旅のはじまり 日置 万里



レリーフ・手 栃原 一成

彫刻部招待作品自評

(制作のねらいなど)

冬の樹

野路 育子 (広島)

私は、銅板を用いた彫刻に取り組んでいます。その制作工程としては、純銅の平板を適当な形に切断し、鍛金、板金、彫金の技法で各部分を形成すると共に、溶接で次第に立体へと構築していきます。この度の制作では、小作品において意識的に装飾的な要素を取り入れました。読書をしながら静かに佇む少女の姿と、春を待つ冬の樹々を重ね合わせ、新しい季節への希望を表そうと試みました。

エントランス

土井 満治 (広島)

この度は、春季二科展にご招待いただき、ありがとうございます。今回出品させていただいた作品は、建築的な要素をもった彫刻作品を作ってみたくという思いから制作いたしました。建築作品は、人の歩みとともにその内容が展開されていくという意味で時間的な広がりを持っていると思います。彫刻作品にもそのような時間的な広がりを持つ

てないだろうかと思いついた作品を制作いたしました。

命継ぐ旅のはじまり

日置 万里 (東京)

厳しい環境に対応しながら命を繋いできた植物の種の中からカエデ・イチビ・ツノゴマをモチーフに選びました。風に乗る・はじける・くっつく等、その知恵のすばらしさに限りない力と美しさを感じます。

今回は前年度の石膏作品をブロンズに置き換えました。素材の本来持つ質感と、形との関係の大切さを再認識させられます。素材選びを含め作品を完成させる事が今後の課題となります。

レリーフ・手

栃原 一成 (東京)

今回出品させて頂いた作品は二年前に制作したものです。

当時、今までは違う手法を模索し、毎日数多くの失敗を繰り返していたのを憶えています。その中で初めて自分の思い通りにかたちを作る事ができたのがこの作品でした。



色即是空 工藤 直



スキンシップ 長谷川 俊廣



生命体としての形・動 藤沢 恵



揺籃Ⅱ 長谷川 登

その為、シンプルで小さな作品ですが私にとっては非常に思い入れのあるものとなっています。

色即是空

工藤 直(秋田)

十数年ねかせた「くの字」に曲がったイタヤ。木の中にはこのトルソが見える。仕事を始めると思ったより腐れがひどい。般若心経の一節が心に浮かぶ。色即是空、空即是色。これを形にしようと思う。滅びゆく肉体、再生する命、人間はどこから来てどこへ行くのか？制作することは今自分が生かされている確かな証。このたび春季二科展に出品させていただきまして本当にありがとうございます。

スキンシップ

長谷川 俊廣(愛知)

最近、生活空間がやたら便利になったと感じ、「据膳盛飯」に甘んじて自分で行わなければならないことを忘れがちになっているのではないかと思います。自分自身にいろいろ問いかけるが、答えはなかなか返ってこない、そんな葛藤の中で思うのが、その時、その時点で制作活動に取り組

ることの喜びを表現し、周りから刺激を受け、見守られ、暖かくぬくもりを感じる作品作りを続けています。

揺籃Ⅱ

長谷川 登(栃木)

今回は、昨年の本展出品作「揺籃」に続くシリーズ第二弾です。これまで一貫して自然エネルギーの脅威をテーマに制作してきましたが、最近の「揺籃」シリーズでは動から静へ、或いは威圧から慈愛へと表現対象の表情そのものを転換させることを目指して制作しています。具体的なイメージは太陽と水の流れです。何れも生命を育む絶対不可欠な存在であり、優しさの象徴であると考えます。

生命体としての形・動

藤沢 恵(埼玉)

石に刻んだスリットには、二つの意味があります。一つは、石の中に埋もれている形を意識し、掴むこと。

もう一つは、スリットが生む造形です。

生きもののように、意志と方向性を持つフォルムを、スリットによって表現しようと試みた作品です。

「春季二科展」を終えて

二科会デザイン部代表
今村昭秀

今年も全国の会員、会友に呼びかけて、春季展への出品を募り、展示したのですが、昨年より六点少ない、七十八点の展示となり、少し盛りあがりに欠ける結果になってしまいました。

が美術団体の二科会に所属する二科会デザイン部の特長であるともいえ、春季展は秋の本展があつてこそです。から、会員、会友全員が出品したくなるような魅力的な春季展にするべく、デザイン部作品の本質的なあり方も含めて、改めて考えなくてはならないと思っています。



デザイン部会場風景

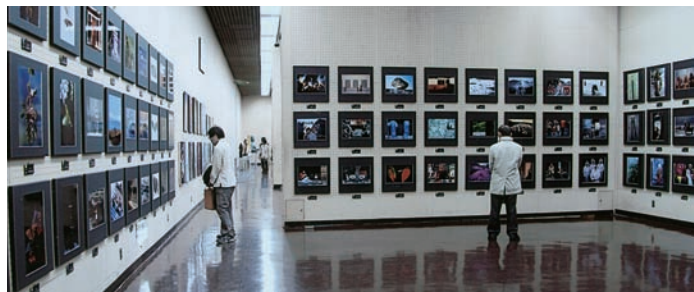
そもそも、美術団体の二科会に所属しているデザイン部は、デザイン作品の職能性より、クライアアントがない、自主制作である作家性の強い、イラストレーションやグラフィックアートなどの作品が多く、デザイン部といながら、デザイン作品としてのあり方、整合性が問われる矛盾をはらんでおり、それこそ

2010「春季二科展」に寄せて

一般社団法人二科会写真部
事務局長 片岡順一

私たち写真部は、二科会の一部門として、高い芸術性を追求した写真表現を目指すとともに、写真の本質である記録性によって、人々の生活や社会情勢などを捉え、常に時代の証言者でありたいという意識を持つて表現活動をしてまいりました。長年慣れ親しんだ上野の東京都美術館の改修工事前、本年をもって一旦終了する春季二科展に参加することが出来ましたのも、前述の記録性と芸術性を併せ持つ写真の特性を未来へつなぐという、会員・会友の使命感と努力によるものであると自負しております。

写真部ではこの春季二科展を会員・会友の新たな写真表現の場と位置付けて参加してまいりましたが、本年は全国四十七都道府県の各支部より選抜した百三十八名の会員・会友作品で構成いたしました。三年間で会員・会友の希望者全員が作品を展示するという目標も概ね達成することができました。



写真部会場風景

国立新美術館への移行に伴い、展示サイズを大きくした写真パネルを、本年は以前に上野で展示していた六十センチ角に戻し、壁面に余裕を持たせて展示することで、それぞれの作品の魅力をより引き立たせることが出来たのではないかと考えます。

また、地域の写真愛好家より、長年にわたりこの地

役員一覽

[illegible]

で開催されてきた二科展をふたたび上野で鑑賞できたのは嬉しいとの声も聞こえ、一旦終了する春季二科展ではありますが、今後も折を見て、四部合同の作品展が開催できたなら素晴らしいと思います。二科展の更なる発展のため、二科展四部が相互の関係を密にして前進してゆきたいと強く思っております。

監事 同 同 名譽理事

[illegible]

杉浦 萩原 綿引 安藤
正美 寛子 道郎 幹衛

第32回 定時会員総会

平成二十二年五月八日午後一時より、第三十二回二科会定時会員総会が国立新美術館講堂に於て開催された。

栗山理事が総司会を担当し、議長に石附理事が選出され、出席者百十八名、委任状四十八通により、総会成立を報告した。織田理事長の挨拶の後、議事に入った。

第一号議案

平成二十一年度事業報告の件

議長が平成二十一年度の二科美術展覧会を主に配布資料に補足説明を加えながら報告。

第二号議案

平成二十一年度決算報告承認の件へ同決算に関する監査結果報告の件

大隈理事より財務諸表、並びに収支報告書の内訳を説明。黒字決算となった事を報告。次いで高野監事より監査の結果、適法である事を報告。

第三号議案

平成二十二年事業計画案承認の件

香川理事より、九十五回二科展、地方巡回展の日程、春季展二年休止、九十五回

展を記念展とする事を報告。又、九十五回展は作品集を一冊に合本する試みを提案した。

第四号議案

平成二十二年収支予算案承認の件

大隈理事より、収入の減少が予想される為、支出を緊縮し、収支均衡予算とした旨の説明があり、地方巡回展についての不満、要望等の質疑の後、承認された。

第五号議案

公益法人移行の件

石附理事より、添付資料に従って説明。「支部」名称の削除、評議員定義の明確化など、法人の移行申請に伴う定款変更を解説。承認

第六号議案

任期満了に伴う新役員選任の件

添付資料を元に選挙結果を報告。理事会推薦の役員候補は全員総会に於て選任。

報告事項

◇百周年記念展準備経過報告
◇掲載料改定（彫刻部）会員 一万円 会友 六千円
◇支部長交代 千葉・岩田博 東京・一乗清明 神奈川・大松峯雄 福岡・阿美代子 佐賀・藤田新山梨・矢野兼三

理事会報告

理事会（09・11・14）

於・国立新美術館研修室
協議事項

◎国立新美術館公募展示室平成二十四年以後の継続使用を承認（使用料5%上昇）

報告事項

◎九十四回二科展の収支を事務局より報告。
◎九十五回二科展について事務局より日程を報告。

菅原理事・松室理事より二科支部長会議の報告。
〔出席者〕

織田、伊庭、石附、栗山、文田、小山、香川、生方、田中、大隈、松任谷、松室、菅原、工藤、吉野各理事
細井名誉理事

理事会（09・12・5）

於・国立新美術館
協議事項

◎平成二十二年役員選挙は前回同様とする。承認
◎作品掲載料の改訂

彫刻部会員 一万円
同 会友 六千円

報告事項

◎第九十四回二科展収支報告
◎第九十五回二科展について
◎公益法人移行についての質疑
◎春季展について
絵画部選抜者の確認
〔出席者〕

織田、石附、栗山、文田、小山、香川、生方、田中、大隈、松任谷、松室、菅原、工藤、吉野、吉井各理事

理事会（10・4・4）

於・二科事務所
協議事項

◎理事補充選挙被選挙人名簿
◎都美術館改修後の会期について

◎第一希望
平成24年4月7日～16日
平成25年3月19日～28日
にて申し込む事で決定。承認

◎JR駅貼りポスターの件
四月申込を承認

報告事項
◎事務局より役員選出第一回投票結果を報告
◎公益法人移行に伴う定款変更部分を石附理事より説明

・本部の役割の明確化
・評議員、参与の明確化
・休会規定の新設、休会委員の会費免除
・「支部」「支部長」名称の使用廃止

◎春季展報告
九十四回展巡回展報告
九十五回展巡回展日程報告
（事務局より）
◎百回展委員会より経過報告
◎会員の動静報告
逝去
絵画 新田 稲實（参与）

退会者

絵画 佐々木 馨（会員）
絵画 冬島大二郎（会員）
休会者
絵画 秋山風三郎（会友）

・支部長交代
千葉支部 会員 岩田博
東京支部 会員 一乗清明
〔出席者〕

伊庭、石附、小山、栗山、文田、倉澤、香川、菅原、生方、田中、大隈、松室、松任谷、吉野 各理事
細井名誉理事

理事会（10・4・21）

於・国立新美術館研修室
協議事項

◎役員選挙第二回投票結果を報告後、協議。
人事案を作成し、承認
◎二十一年度決算報告
二十一年度決算書について報告。一部表記の訂正の上、承認

◎二十二年事業計画及び予算案 概略説明の後 承認
（案）について 概要説明後、事業計画、巡回展日程を説明。総会進行、投票結果表記法について協議。承認
◎百周年記念事業委員会経過報告。産経新聞社と協議していく事を了解される。
◎委員会委員の任期について検討。
任期は四年間とし、他委員会への移動を妨げない。

委員は地方会員にも、可能な限り、参加を募る。
報告事項
◎公益法人移行申請
定款変更部を確認。
◎二十二年春季展報告
節約により、黒字収支となった。
次回春季展の希望期日確認。
◎九十五回展日程を報告
〔出席者〕

織田、伊庭、石附、小山、栗山、文田、倉澤、香川、菅原、生方、田中、大隈、松室、松任谷、吉井、吉野各理事

理事会（10・5・8 午前）

於・国立新美術館研修室
協議事項

◎平成二十四年度春季展の都美術館使用希望期日の変更。
◎事務局人事案 承認
◎九十五回展作品集の合本化 承認
◎大臣賞外部審査員候補案 承認

報告事項
◎第三十二回総会進行の確認
◎会員動静
退会 絵画部 山口真珠
逝去 彫刻部 高階城太郎
〔出席者〕

織田、石附、小山、栗山、文田、香川、菅原、生方、田中、大隈、松室、松任谷、吉井、吉野各理事、細井名誉理事

報 討

参与 新田 稲實氏
逝去す第92回展出品作
風 F100 新田 稲實

参与 新田 稲實

平成二十二年四月二日没 87歳
ご遺族 古谷 津恵子（長女）
〒七三〇一〇〇四一
広島市中区小町五二七
（千葉市美浜町高洲）
三一五六一九〇二

新田 稲實氏略歴

一九三二年四月七日 広島市に生れる
一九五七年 特待賞受賞
一九五九年 会友推挙
一九六四年 会員推挙
一九七三年 会員努力賞受賞
一九九九年 理事就任
二〇〇五年 総理大臣賞受賞

「風に吹かれながら、雑木林の落葉の中に坐りこみ、川岸を、夜のまちを、さまよい歩く、京都の哲学の道、東京中央線の荻窪沿線から西に向って歩きまわり小佛の峠で、山の雷鳴におどろき、与瀬の町まで、B29爆撃機の爆音を背にしながら下山した。」これは、平成十六年に発刊された、新田稲實「青春スケッチ画集」のあとがきの中の先生の青春のおもいでのお言葉の一節です。先生と二科会との出会いは、戦後でもない昭和二十五年春季二科展に出品されたときからで、当時、先生は、広島市立観音中学校の美術教師をされていた。夏休みになると、同僚の増田勉先生（初代二科広島支部長）とキャンパスをかつぎ上京、

都内の小学校の講堂の一隅を借り作品制作し、東郷青児先生宅を訪問して、指導を仰ぎながら二科展出品を果たしたの苦心談をよく話されていた。

先生は、風をテーマに作品を多くのこされていますが、その作品には、先生の教育者として、人としての、様々なおもいや願ひ等々、自然の風に仮託した心の中に吹く風、人間実存の痛切な声や叫びを感じます。

今年一月開催された第九十四回展は第五十四回広島展として半世紀をこえた巡回展となりました。

その間先生は広島支部長としての二十年間、支部活動のリーダーとして、先輩として、指導者として、厳しさの中に温かく愛情あふれる御指導をいただきました。

「おい絵、かくんか、二科出品やめるんか！」強い口調の中に温かく、やさしい先生の声が聞こえてくるようです。ほんとうに、悲しく、残念です。

支部会員一同感謝し、御浄土より今までと変らず御見守り下さいますようお願いをこめて、心より御冥福をお祈りいたします。

合掌
高藤博行

報 討

会員 高階 城太郎氏
逝去す春季二科展出品作
俳優 俳優
ブロンズ (H95×W65×D80cm)
高階 城太郎

会員 高階 城太郎

平成二十二年四月二十八日没 64歳
ご遺族 高階 惇子（妻）
〒二七四一〇〇六四
千葉県船橋市松ヶ丘
四一二五一一

高階 城太郎氏略歴

一九四五年 愛媛県に生まれる
一九七九年 竹の台賞受賞
一九八二年 会友推挙
一九八五年 会友賞受賞
一九九四年 会員推挙
二〇〇四年 会員賞受賞

高階城太郎氏を悼む

昨年の二科展の受賞会議の後、高階氏から癌のため入院するからと告げられ、愕然として言葉を失い、その時の淡々とまた毅然とした態度と口調が今でも思い出され、脳裏から離れません。

高階氏とは彼が会友になってから後、何かの縁で最も親しい友人の一人となり、機会がある毎に一緒に飲み、親しく語り合いました。彼は誠実で優しい人でした。

一九九四年に私が広島に赴任の時でも、心から心配してくれ、彼の一回目の大病を大手術で救った恩人T先生が、東京から故郷広島に帰り、病院に勤務しているからと紹介してくれ、そのT先生にはなにかと大変お世話になりました。

た。

この年彼は会員推挙になり数年後二度目の大病咽喉癌の手術、発声練習にも打ち克ち、話せる様になり、時々、広島にも電話をもらい、大きな喜びでした。

告別式の日葬送の折、バスに乗る時、葬列中に先生を見つめ飛んで行って御挨拶をし、お互いに瞬時の悲しみを感じ合いました。

先生は霊柩車を見送っていつまでも合掌しておられました。私はバスから先生に手を合わせ感謝致しました。

今年の春季展に彼の男の半身像の大作を見、肉付けも元氣な時の作りで、何時の作品かと思いつつ、写真と手紙を送るつもりで会場と全作品を撮りました。

奥様から電話が入り、数日前危険な状態でしたが持ち直し、今入院中との事、作品は、入退院を繰り返す中、依頼された像で、気力で制作したものと知り、高階君の意志と責任の強い人となりを感じ、感動しました。

これから教員も退任し、彫刻一筋と考えていた事でしよう。残念でなりません。御冥福を心からお祈り致します。

合掌
綿引道郎

事務局だより

第三十二回定時会員総会に於て、役員改選によって選出されておりました新役員・監事及び評議員が選任されました。これに伴い事務担当も新メンバーになりました。

三月の春季展も盛況裡に終了しました。本年から二年間、開催を休み、平成二十四年四月を開催会期として都美術館への申込みをいたします。また、公益法人移行認定申請に伴う、定款変更案が全会一致で承認されました。八月の申請へ向け始動します。

五年後に迫った百周年行事の準備委員会も、サンケイ新聞社の協力のもと軌道に乗ってきました。

第九十五回記念二科展作品集について、記念展の企画の一環として、また一般出品者の出品や作品集掲載へのモチベーションを高める事を目的に、会員・会友・入選者の合本作品集とする事が承認されました。具体的作成スケジュールや仕様については、今後作品集担当に精査検討して戴きます。

＜短信＞

●上野の森美術館絵画大賞展
大賞受賞

絵画の広いジャンルを対象とした公募展である第二十八回上野の森美術館絵画大賞展で、二科会京都支部所属の根木悟さん作「TRAVELS#2」が大賞を受賞されました。絵画部の寺園和己会友、嶋田みどり会友、木村利加子会友、真島夏子さんも入選されました。



「TRAVELS#2」 根木 悟
アクリル・その他 100S

●平成二十二年一月二十九日～二月八日、日動画廊において開催された、新人の登龍門である第四十五回昭和会展に、絵画部会友の山下和子さんが、招待出品されました。

川内悟事務局長、長い間事務局を担当した森岡謙二会員に変わり、新事務局となりました。お疲れ様でした。新事務局は事務局長・山中宜明、事務局員・安田明長、瑠珠世となります。事務員は引き続き、塩見満守子さんをお願いします。

理事・監事・評議員合同会議

於・国立新美術館研修室
平成二十二年十二月五日

●第九十四回二科展収支報告
事務局長より説明

●第九十五回二科展について
事務局長より説明

●公益法人移行について
申請日を一年間先延ばしする提案があり、検討の結果、当初予定通り、二十二年八月に申請する事を決定しました。

●二十二年春季展について
二十一年春季展収支について、事務局より報告。

●二科受賞者選抜展について、収支等を報告。

●役員改選について
事務局より説明

●新美術館の使用料値上げ分は約七十万円となる。

●百周年記念事業について
担当者は吉野、香川、松任谷、生方理事とする。

●退会者報告
彫刻部会友 菅野チイ子
事務局長より報告

●二科会山梨支部設立
承認

・招待はがきの配布
入選者五枚、選外者二枚とする。

写真部 一四五〇〇枚
デザイン部 四〇〇〇枚
を配布する。

事務局より報告

第九十五回二科展日程（予定）

八月

十九日（木）搬入（絵・彫）

二十日（金）搬入（絵・彫）

二十一日（土）午前中搬入（絵）
審査（彫）

二十二日（日）審査（絵・彫）

二十三日（月）審査（絵）

二十四日（火）審査（絵）

二十五日（水）審査（絵）

二十六日（木）作品整理（絵）

二十七日（金）作品移動（絵）

二十八日（土）選外搬出（絵・彫）

二十九日（日）作品移動（彫）

三十日（月）選外搬出（絵）

三十一日（火）展示作業

九月
一日（水）開会
テブカット
授賞式 懇親会
ギャラリートーク

（金）作品講評会（絵）
ミニコンサート

三日（金）ミニコンサート
夜間開館

五日（日）講演会
シンポジウム
ギャラリートーク

（金）作品講評会（絵）
ミニコンサート

七日（火）休館日
夜間開館

十日（金）ミニコンサート
夜間開館

十三日（月）閉会（午後二時）
撤去・搬出

十四日（火）搬出（絵・彫）

十五日（水）搬出（絵）

第九十五回二科巡回展

新潟展

新潟県民会館

平成二十二年十月九日

大阪展

大阪市立美術館

平成二十二年十一月二日

金沢展

金沢21世紀美術館

平成二十二年十一月十七日

京都展

京都市立美術館

平成二十二年十一月二十七日

名古屋展

愛知県美術館

平成二十二年十二月十四日

福岡展

福岡市立美術館

平成二十二年二月十五日

鹿児島展

歴史資料センター黎明館

平成二十三年三月十日

熊本展

熊本市立美術館

平成二十三年三月二十三日

広島展

広島県立美術館

平成二十三年四月予定

（二十二年九月決定）

「二科」秋季五十六号の訂正
「二科」秋季五十六号に左記の記載漏れと誤記がありました。謹んでお詫びいたします。

・二ページ五段目十二行目誤二十名迄絞り、この二

正三十名迄絞り、この三八ページ受賞者氏名欄に記載漏れ

文部科学大臣賞
前田耕成（東京）

編集後記

今年は全国的に異常な寒暖が続き、はっきりとした季節感がうすれて来ている様です。

本展に向かって、体調に気をつけて制作に御励み下さい。六本木では清々しい夏になります様に。

（S）

編集委員

委員長（彫） 島田絃一 呂
委員（絵） 倉橋 寛

〃 戸狩 公久
〃 浅賀 昌子

〃 岩田 明長
〃 阿部 昌義

写真記録 本間 千恵子
（彫） 阿部 昌義

平成二十二年五月三十一日発行

社団法人二科会

東京都新宿区新宿四一三十五
レイフラット新宿五〇一号室
電話 〇三三三四六六四六
一六〇〇〇三三